

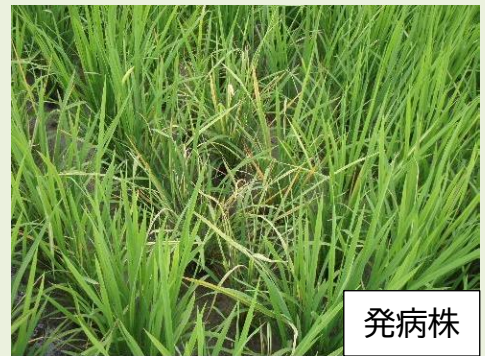
早期に秋耕を実施しましょう！

①イネ縞葉枯病の拡大に注意！

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。今年は中生以降の品種を中心に東近江全域で多くの発生が確認されており、穂の出すくみや本病により枯死している株が見受けられました。

刈り株再生芽は、イネ縞葉枯病ウイルスを持っているヒメトビウンカの越冬場所となり、次年度の被害につながります。

早期の秋耕により、越冬するヒメトビウンカの密度を減らすことができます。また、広域に秋耕を行うことで、防除効果が高まりますので、地域ぐるみで対策しましょう！



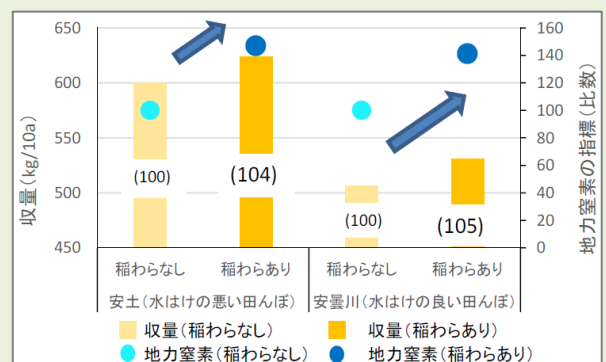
発病株



発病した刈株再生芽

②収量の向上

稲わらなどの有機物を早期にすき込むことで腐熟が進み、地力が向上して収量増加につながります！



(図) 稲わら施用による水稲収量および地力向上効果

出典：滋賀県「水田土づくりマニュアル」

耕起前には堆肥や土づくり資材を投入し、地力のさらなる維持・増強を行いましょう！